

2018年1月30日

毎月分配型における資金流入ファンドの変化

- 資金流入上位ファンドの顔ぶれをみても、毎月分配型から低分配型へ資金フローが変化していることが確認できる。
- 資金が流入している毎月分配型ファンドでは、低リスクのアロケーション型ファンドがリタイア層から一定の支持を得ている一方、最も資金が流入しているインド債券ファンドはリスク水準が相対的に大きく、ポートフォリオの中心として保有するには適さないファンドといえる。



ファンドアナリスト
標(しめぎ) 陽平

1. 資金流入上位ファンドには大きな変化がみられる

投資信託市場の資金流入動向は、毎月分配型から年1回決算などの低分配型へと大きく変化した。運用難による毎月分配金の削減や、金融庁による顧客本位の業務運営へ向けた取り組みによる影響が大きい。

図表1は1年前の2016年12月と直近

の2017年12月における過去6カ月間の資金流入上位15ファンドを比較したものである。1年前には15本中12本が毎月分配型であったのに対して、直近では、毎月分配型はわずか3ファンドに留まっており、その顔ぶれも変化していることがわかる。

図表1：過去6カ月の資金流入上位15ファンド

1年前(2016年6月~12月)

直近(2017年6月~12月)

No.	ファンド名	運用会社	分類	決算回数	資金流入(億円)	No.	ファンド名	運用会社	分類	決算回数	資金流入(億円)
1	フィデリティ・USリート・ファンドB	フィデリティ	REIT	12	4,139	1	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンドA	野村	外国債券	2	2,013
2	新光US-REITオープン	AM-One	REIT	12	2,599	2	ひふみプラス	レオス	国内株式	1	1,892
3	LM・オーストラリア高配当株ファンド(毎月分配)	LM	外国株式	12	1,964	3	SMBC・アムンディプロテクト&スイッチファンド	アムンディ	複合資産	1	1,877
4	グローバルAIファンド	三井住友	外国株式	1	1,790	4	野村インド株投資	野村	エマーシング株式	1	1,566
5	東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上	複合資産	12	1,170	5	新興国ハイクオリティ成長株ファンド	AM-One	エマーシング株式	1	1,438
6	ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型)B	大和	REIT	12	1,044	6	グローバル・ロボティクス株式F(年2回)	日興	外国株式	2	1,420
7	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	日興	REIT	12	986	7	ロボット・テクノロジー関連株F	大和	外国株式	2	1,170
8	野村インド株投資	野村	エマーシング株式	1	933	8	グローバル・フィンテック株ファンド(年1回)	日興	外国株式	1	999
9	GS米国REITファンドB(毎月分配型・為替ヘッジなし)	GS	REIT	12	889	9	野村インド債券ファンド(毎月分配型)	野村	エマーシング債券	12	849
10	マクロ・トータル・リターン・ファンド	三菱UFJ国際	その他	2	768	10	JPMベスト・インカム(毎月決算型)	JPモルガン	複合資産	12	780
11	フィデリティ・USハイ・イールドF	フィデリティ	ハイイールド債券	12	645	11	キャピタル・ニューワールド・ファンドB(為替ヘッジなし)	キャピタル	外国株式	1	776
12	ダイワ米国リート・ファンド(毎月分配型)	大和	REIT	12	641	12	グローバル・ハイクオリティ成長株F(為替ヘッジなし)	AM-One	外国株式	1	745
13	東京海上・ニッポン世界債券F(為替ヘッジあり)	東京海上	外国債券	12	633	13	新シルクロード経済圏ファンド	日興	エマーシング株式	1	686
14	UBS世界公共インフラ債券投信円(毎月分配型)	UBS	外国債券	12	581	14	高成長インド・中型株ファンド	三井住友	エマーシング株式	4	653
15	通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型)ブラジルリアル	AM-One	REIT	12	551	15	スマート・ファイブ(毎月決算型)	日興	複合資産	12	630

2. 資金が流入している毎月分配型ファンドの特徴

図表2は直近の6ヵ月間で流入上位となった毎月分配型の3ファンドをまとめたものである。特徴的なのは、「JPMベスト・インカム」や「スマート・ファイブ」といった低リスクのアロケーション型ファンドがそれぞれランクインしている点である。分配金利回りをみてもリターン水準と比較して妥当な水準であることが確認できる。

毎月分配型ファンドを志向する顧客は、大きなリスクをとれないリタイア層に多く、機動的な資産配分変更により資産価値の保全が期待できるアロケーション型ファンドが選好されている点は望ましい傾向といえる。過去の運用実績をみてもリスクを抑えながらリターンを獲得するなど、優れたパフォーマンスを残していることがわかる。

図表2：直近の毎月分配型資金流入上位ファンド

(年率・%)

No.	ファンド名	運用会社	分類	分配金 利回り	運用管 理費用	リターン 1年	リターン 3年	リターン 5年	リスク 1年	リスク 3年	リスク 5年	主要 販売社
1	野村インド債券ファンド(毎月分配型)	野村	エマー ジ ン グ 債 券	12.7	1.72	8.51	4.74	10.54	4.28	9.94	14.83	地銀
2	JPMベスト・インカム(毎月決算型)	J P モ ル ガ ン	複合資産	3.8	1.60	6.50	3.29	-	2.27	5.69	-	都銀・ 地銀
3	スマート・ファイブ(毎月決算型)	日興	複合資産	4.6	1.45	4.33	2.32	-	2.28	4.51	-	ゆうちょ 銀行

他方で、最も資金が流入している「野村インド債券ファンド」の過去5年のリスク水準は約15%であり、相対的に大きくなっている。主な要因はインドルピーの為替変動リスクであり、過去のリーマンショック時には約2ヵ月間のうち対円で20%超下落した。また、図表4は当ファンドの債券種別の内訳であるが、利回り確保のため約7割が社債によって運用されており、インド経済の混乱期等にはクレジットの悪化により債券価格が大

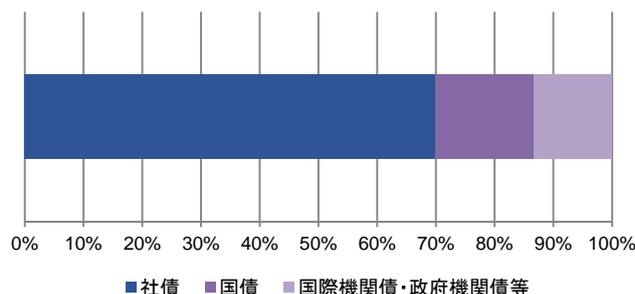
きく下落する可能性がある。

以上のように、当ファンドはリート型ファンドの受け皿として分配金ニーズを上手く捉えてはいるものの、潜在的なリスクは大きくポートフォリオの中心として保有するには適さないファンドといえよう。当ファンドの主要な販売会社は地方銀行であるが、その多くで販売ランキングの上位となっており、顧客の投資意向やリスク許容度に即した投信販売が適切に行われているか留意する必要がある。

図表3：野村インド債券ファンドの投資方針

投資方式	ファンド・オブ・ファンズ
主な投資対象	インド関連の発行体が発行するインドルピー建ておよび米ドル建ての公社債等
デュレーション	3～8年
格付け	取得時においてB格相当以上
為替対応方針	米ドル建て資産については対インドルピーで為替ヘッジ

図表4：野村インド債券ファンドの債券種別内訳



出所：野村アセットマネジメント（債券種別の内訳は2017年12月末基準）

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社(以下、MAB)に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。
- 本レポートで分析対象としたのは、公販ファンド(ETF、DC専用、SMA専用、公社債投信等を除いた公募投信)、アセットクラスの種類は弊社分類(MAB分類)による。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリスト・ユニット アナリスト第1・第2グループ

標・吉田・福本・勝盛

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会